

# 長引く咳の診療

七尾病院 呼吸器内科 藤村 政樹

長引く咳には、必ず原因があります (表1)。

七尾病院では、長引く咳の専門的診療を行っています。

診断方法には、治療的診断と病態的診断があります。

1. 治療的診断とは、ある原因にしか効かない治療を順番に行って、その効果を評価して原因を診断することです (図1)。この診断法では、薬に反応が良くない場合には診断ができません。

2. 病態的診断とは、咳の起こる仕組みを検査によって調べることによって原因を診断することです。胸部・副鼻腔レントゲン検査、誘発喀痰検査、気道可逆性検査、気道過敏性検査、咳感受性検査、気管支平滑筋収縮に対する咳反応性検査の結果を組み合わせで診断します (表2)。これらの検査を行うには、3日間の受診が必要です (遠方の方は7泊8日の短期入院)。

病態的診断に基づいて治療的診断を行い、両方の診断が一致すれば確定診断です。確定診断できれば、咳を止めるための導入治療を行い、咳が止まったら再発しないように維持治療を行い、治療薬を減量・中止します。原因によっては、最低2年間の長期治療が必要となります。

表1 遷延性ないし慢性咳嗽の原因(成人)

原因疾患または原因	咳嗽の性状	咳嗽の持続	特異的治療法
1. 感染後咳嗽	乾性	遷延性	なし(対症的)
2. 咳喘息	乾性	急性~慢性	気管支拡張療法、吸入ステロイド療法
3. アトピー咳嗽	乾性	急性~慢性	ヒスタミンH1拮抗薬、吸入ステロイド療法
4. 副鼻腔気管支症候群 (び慢性気管支拡張症など)	湿性	急性~慢性	14,15員環マクロライド療法、去痰薬
5. 亜急性細菌性副鼻腔炎	咳払い	急性~遷延性	抗菌薬
6. 百日咳	乾性	急性~遷延性	抗菌薬*
7. 肺炎クラミジア	乾性	急性~遷延性	抗菌薬*
8. マイコプラズマ	乾性	急性~遷延性	抗菌薬*
9. 胃食道逆流症	乾性	急性~慢性	プロトンポンプ阻害薬、食事指導
10. 心因性・習慣性咳嗽	乾性	急性~慢性	診療内科的治療
11. 薬剤性	乾性	急性~慢性	原因薬剤の中止
12. 慢性気管支炎	湿性	急性~慢性	禁煙または刺激物質の除去・回避
13. 後鼻漏症候群	咳払い**	急性~慢性	鼻・副鼻腔の治療
14. 気管・気管支の腫瘍	不定	急性~慢性	摘出、摘除
15. 気管・気管支の結核	不定	急性~慢性	抗結核化学療法
16. 気道内異物	不定	急性~慢性	摘出、摘除
17. 間質性肺炎	乾性	急性~慢性	なし(対症的)
18. その他の稀な疾患・原因			

\*すでに抗菌薬投与が投与されている場合には特異的治療はなく、対症療法となる。

\*\*欧米では、乾性咳嗽を呈すると報告されている。

図1 頻度の多い遷延性・慢性咳嗽の原因疾患の治療的診断

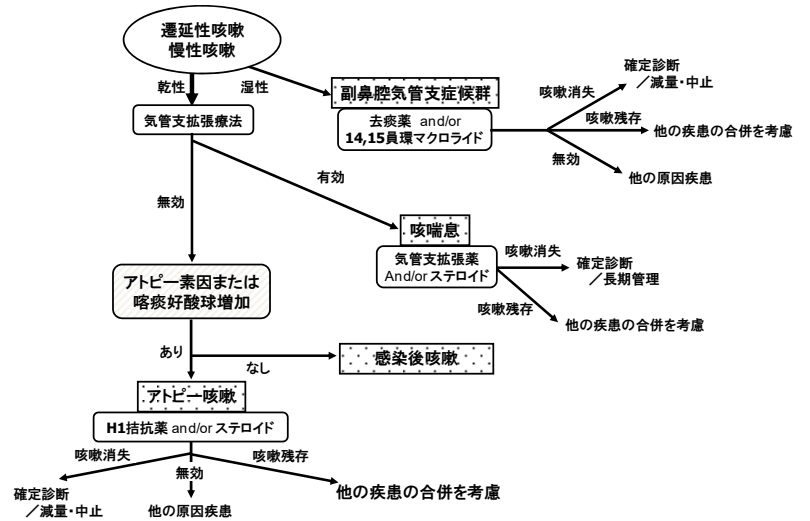


表2 長引く咳を病態的診断するための専門的検査所見

	気管支喘息	咳喘息	アトピー咳嗽	副鼻腔気管支症候群	胃食道逆流症
誘発喀痰検査	好酸球	好酸球	好酸球	好中球	好中球
気道可逆性検査	陽性	陰性	陰性	陰性	陰性
気道過敏性検査	陽性	陰性	陰性	陰性	陰性
咳感受性検査	陰性	陰性	陽性	陰性	陽性
平滑筋収縮に対する咳反応性検査	陰性	陽性	陰性	陰性	陰性